



# かがやき

～一人一人のウェルビーイング～

るるるるるるるるるる  
るるるるるるるるるる  
るるるるるるるるるる  
るるるるるるるるるる

時津町立鳴鼓小学校  
学校だより R6年度第2号

令和6年5月2日  
文責：校長 今井大輔

## 楽しかった歓迎遠足

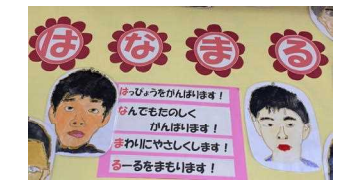
4月19日(金)に最高の天候の下、歓迎遠足を実施しました。この歓迎遠足には、いくつかの目的があります。

- ・新1年生を在校生が優しい心で迎え入れる。
- ・新しい学級の仲間と仲良くなる。
- ・1年と6年のパートナーが交流を深める。
- ・全校児童で交流を深める。
- ・交通ルールを守り、安全に気を付ける。
- ・公共のマナーを学ぶ。 などです。

今回の遠足を実施してみて、特に目についたのは、「かがやき」の中の「や」と「き」でした。「や」に関しては、6年生が、とにかく1年生へ「やさしく」接していました。全校遊びの増え鬼では、手をつないで一緒に逃げたり、追いかけたり。そして走る速さは、1年生に合わせてあげる心配りがあるのです。復路では、疲れた1年生の気を紛らわそうといういろいろな話題を切り出したり、励ましたりしていました。中には、荷物をもってあげている子もいました。

③に至っては、近頃の学校教育の中では、なかなか無い、良い経験ができました。「ああ、もうきつい。限界！」という言葉が帰り道にどの学年からも聞かれました。たくさん歩き、南公園で走り回って遊んだ帰り道です。特に最後の鳴鼓坂は、どの子も足取りが重く、無言で歩くか、お互いに励まし合って登っていました。1・6年生が登り終わった時に、先に帰校していた2年生から自然と拍手が起こり、「がんばったねー」の声があちこちから出てきました。最後まで自分の足で歩き通せた喜びと達成感を味わうことができました。

また、今回の遠足では、たくさんの笑顔の写真を撮ることができました。昨年と何が違うのかと考えると・・・「マスク着用」でした。子供たちが楽しそうにしている笑顔を見ることのできる幸せを再認識できました。



## 目標には「こだわり」

鳴鼓小で「かがやき」を掲げているように、各学年や学級においても、目標(スローガン)をつくって、1年間を過ごしていきます。日々の学校生活や行事などで、目標に沿って振り返ったり価値付けをおこなったりすると、とても大事なものです。全学年分を紹介します。

- ★学年目標
- 1年... いっほいいっほ
  - 2年... ぐんぐん
  - 3年... チャレンジ
  - 4年... Happy 4年生
  - 5年... 挑戦
  - 6年... STARS(スター)考動(こうどう)

- ★学級目標
- 1年1組... カラフル >ピカピカ1年1組<
  - 2組... いっほいいっほ
  - 2年1組... はなまる
  - 2組... パーフェクト
  - 3年1組... SUN
  - 2組... みんな なかよく 力を合わせて助け合う3年2組
  - 4年1組... ハッピースマイル >みんなが主役 みんなのために<
  - 2組... 日本一
  - 5年1組... 闘志
  - 2組... 最こう
  - 6年1組... 無限
  - 2組... BEST



それぞれの目標(スローガン)には、担任や子供たちの思いが込められています。それぞれの学級がこの1年間でどのように成長し、団結していくのか、今から楽しみです。

## つぶやき

「校長先生！今年はずぶやきのコーナーは無いのですか？」数名の保護者や職員から尋ねられた。私にとっては、最高に嬉しい言葉である。偏った見方や思いを掲載してしまうこともあるかもしれないが、自分の思いや気付きを素直に載せている欄である。多からずとも楽しみにして読んでくださる方がいるというのは、やりがいにつながる。正に「ウェルビーイング」である。

話は変わるが、新年度が始まって約1カ月が過ぎた。1年生もすっかり小学校に慣れてきた感じである。最初の数週間は、集団登校の集合場所まで、見送りやお迎えに来てくださっている家庭がたくさんあった。登校する我が子の後ろ姿を心配そうに見守ったり、スマホに写したりといった新年度ならではの様子が見られた。親の愛情が見られ、ほっこりとする場面である。学校や上級生を信頼し、子供たちの背中を押して登校させてもらっていることにも感謝である。

鳴鼓小は、集団登校であるので、集合場所からは、上級生が学校まで連れて行ってくれる。我が子たちも鳴鼓小出身なので、上級生に連れて行ってもらってとても助かったことを覚えている。前任校は、自主登校であったので、兄弟や近所に知人の上級生がいない場合は、1年生の保護者は、安全に登校させるために、学校の近くまで一緒に連れ添ってることが多かった。安全に登下校することは、保護者の願いでもあり、責任である。学校でも、今年度も事故や事件0を目指して、安全指導をしていきたいと思っている。